課題２

ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析

令和７年度～令和２６年度

・ヒバ天然林試験地
　ヒバ天然林施業指標林の中に1ha（100m×100m）のプロットを設置し、平成７年に択伐した後の林況の変化を調査してきたところ、平成22年には択伐前の水準まで林分蓄積が回復していると考えられる結果となりました。また、稚樹の総本数は停滞状態にあり樹高成長も鈍化傾向にあることから、光環境を改善しヒバ稚樹の発生や中小径木の成長を促すため、ヒバの成長を阻害している広葉樹やヒバの成長不良木を中心に選木し伐採する必要があると考えられます。

ヒバ天然林試験地

ヒバ天然林試験地内の広葉樹

・今後の取組
　今後は、発生した稚樹を後継樹として成長させるためには、どのような施業を実施することが有効であるかについて調査する必要があります。そして、施業前後のヒバ稚樹の発生数や各階層の成長量を調査していくことで、その施業効果を検証します。

ヒバ稚樹

樹幹周囲長調査の様子